

いぬがわか

IV

2014

No. 167

東京都世田谷区歯科医師会会報
<http://www.setagaya-da.or.jp/>



東南アジア旅行の知的楽しみ方 「インド化」された国々へ 遺跡の旅—X X X IX

下馬部会 齋藤賢一

今回は石棺仏のお話をしたいと思います。古墳時代（3～7世紀）には沢山の古墳が造られました。中の柩が地震や洪水、盗掘、新田開発などによって地上に現れます。柩の材料としては木材、石材があります。このうち木材（木棺）は腐りやすいので現在まで残っているものはほとんどありませんが、石材（石棺）は耐久性も良いため後世に残ります。そして露出した石棺に後世（鎌倉時代、室町時代）の人々が仏像や梵字を彫って祀りました。また何も彫られていない石棺も祀られていることから古代の死者に対する鎮魂の意味もあったと思われます。石棺に彫られた仏像を石棺仏と言います。石棺仏は色々な地域に分布していますが、特に兵庫県、播磨の加古川流域に集中しています。このことは播磨地方に古墳が多いこと（全国一）を意味しています。大陸からの文化の終着地は大和地方ですが播磨はその文化の中継地として発展していました。さらに東播磨では石棺の高品位の石（竜山石）が沢山とれます。この石は河内や奈良の権力者に珍重されました。しかし古墳が多い大和地方には石棺仏はあまり発見されていません。石棺仏が造られた鎌倉、室町時代は民衆の間では浄土宗がとても盛んでした。この時期の奈良は南都六宗と言われる奈良仏教の地で、新興宗教の浄土宗は受け入れられませんでした。石棺仏は浄土宗のもとで沢山制作されたため、奈良地方では余り造られなかったと思われます。浄土宗は当時の末法の世に受け入れられ、貴族だけの難しい仏教から、誰でも念仏すればどんな人でも平等に救われると言う単純な教えはすぐに広まりました。

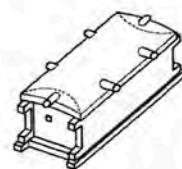
石棺に彫られた仏はほとんどが阿弥陀如来と地藏菩薩です。阿弥陀如来は浄土宗の本尊で、死後極楽浄土を約束してくれるありがたい仏です。また地藏菩薩も釈迦入滅後、次に現れる弥勒菩薩の出現までの間、現世に現れ人々を救済する頼もしい仏です。少し詳しく説明しますと、仏教の教えでは釈迦の入滅後、五十六億七千万年後に弥勒如来が現れ人々を救済しま

すが、その間は無仏の時代です。地藏菩薩は無仏の時代に六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上）にあって衆生の救済を釈迦から委嘱されているのです。人々は極楽浄土へ行けない場合、六道で輪廻転生します。六道にいる人々は地藏菩薩にすがって浄土で往生したいと願います。この六道で救済する地藏を彫った六地藏は寺院の境内、墓地の入口、村の境や磨崖に見られます。つまり阿弥陀如来には来世を、地藏菩薩には現世の救いを求めた、人々の篤い願いなのです。この願いが多く石棺仏を生み出しました。石棺仏には奉納した人の名前が彫られていることがよくあります。一人から数十人の名前が彫られています。これは「逆修」といい、生きていた間にあらかじめ自らの死後の追善供養をすることで、逆修は死後の供養よりも七倍の供養効果があると信じられていました。そのため追善供養としての石棺が沢山作られました。

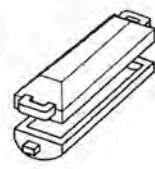
使われた石棺の種類は長持型石棺、家型石棺、組み合わせ式家形石棺があり蓋石、側石、底石などを加工して使われました（写-1）。

播磨地方の石棺仏は加西市、加古川市に特に多く、その周辺の高砂市、姫路市、小野市に見られます（写-2）。

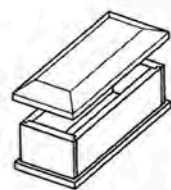
まずは加西市から見学します。北部の池上町の山麓の溜め池のほとりに春岡寺があります。本堂の左にトタン屋根に覆われて大きな家型石棺の蓋石が安置され、



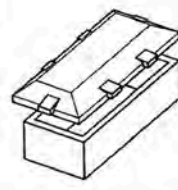
長持形石棺



舟形石棺



組合せ式家形石棺
縄掛け突起なし



割り抜き式家形石棺
縄掛け突起付き

写-1 「石棺の種類」



写-2 「播磨の地図」

阿弥陀坐像が彫刻されています(写-3)。残念ながら半分に割れてしまっていますが鎌倉時代後期の秀作です。上と左右に5個の縄掛け突起が着いています。

北条町小谷には地藏堂がありここに「よばりこき地藏」が祀られています。家型石棺の蓋石を利用して地藏と名が付いていますが中央は阿弥陀坐像で大きな舟形光背が刻まれています(写-4)。左右には6体の地藏菩薩が彫られています。1345



写-3 「春岡寺石棺仏」

年の碑文がある鎌倉時代の後期の作です。「よばり」とは寝小便のことで御参りすると夜尿症が治ると言われています。

石棺仏ではありませんが北条でぜひ見ておきたいのが北条の五百羅漢です。羅漢寺境内に450体が鎮座し



写-4 「小谷石仏-よばりこき地藏」

ています(写-5)。制作は江戸時代初期頃と言われ抽象化された様式はとても魅力的です。ほとんどの像は1m未満の角柱状の石材の上部から頭部を削りだし、肩から下は角柱のままにして、手や持ち物を線刻や薄肉彫にして作られています。まるで円空や木喰が彫った石仏みたいです。



写-5 「北条五百羅漢」

加西市中部の玉野町にある加西球場の脇道を少し登ると山伏峠石棺仏があります(写-6)。三基あり向かって右は家型石棺の蓋石を使用したとても大きなもので県下最大のもので。中央に印を結んだ阿弥陀坐像を彫刻し、5つの縄掛け突起が確認出来ます。1337年の銘があります。左側には長持型石棺の蓋石全部を使用し、中央に半跏の地藏菩薩、その回りに小さな6体の地藏立像を彫ってあります。縄掛けの突起が独特な石棺仏で1338年の銘があります。

玉野町にもう1つ、豊倉の近くの田んぼと木立の間に玉野石仏があります。

大型の家形石棺の蓋石に阿弥陀坐像を彫ってあり



写-6 「山伏峠石棺仏」

大きな舟形光背に二重の円を描き、如来の頭には肉髻がはっきり見えます（写-7）。鎌倉時代後期の作でとてもバランスの良い素晴らしい像です。

加西市南部の上宮木町の集落の中に上宮木石棺仏があります。組み合わせ式家型石棺の



写-7 「玉野石仏」

底石に阿弥陀坐像が薄肉彫で彫られています（写-8）。流麗な線で彫られた傑作です。南北朝時代の作です。

加古川市の加古川左岸北部に神野町があります。ここの西之山墓地の入口に西之山墓地石棺仏があります。2基並んでおり、いずれも組み合わせ式石棺の側石が使われております。左側は3体の阿弥陀坐像と1体の地藏立像、右側は2体の阿弥陀坐像が彫られています（写-9）。南北朝時代の制作です。ここの墓地の南側の奥に同じ南北朝時代の出来の良い六地藏があり、やはり古墳石材を使ったものと思われます（写-10）。

加古川右岸東部の平荘町にある長楽寺墓地に長楽寺石棺仏があります。大型の縄掛け突起の付いた家型石



写-8 「上宮木石棺仏」

棺の蓋の内面に6体の像が彫られています（写-11）。上段は2体の阿弥陀坐像、中段は2体の地藏菩薩、下段は右が地藏菩薩で左はこの石棺仏を作った逆修の施主か供養者と思われます。前には小型の削り抜き式石棺の身が置かれており南北朝時代の作です。

近くに溜め池があり、西の農道脇にハツ仏石仏がお

近くに溜め池があり、西の農道脇にハツ仏石仏がお



写-9 「西之山墓地石棺仏」



写-10 「西之山墓地六地藏」

堂の中に安置されています。大型の家形石棺の蓋に8体の仏像が彫ってあります(写-12)。内側上段2体と外側4体は阿弥陀坐像、内側下段左は地藏菩薩、右は逆修の施主か供養者と思われます。南北朝時代の作で長楽寺石棺と同じ作者と言われている。



写-11 「長楽寺石棺仏」



写-12 「ハツ仏」

上荘町の公民館前のお堂裏に見登呂姫の石仏があります。板石の中央に阿弥陀立像、脇侍の観音菩薩、勢至菩薩の阿弥陀三尊が彫られています(写-13)。室町時代の作でとても優しい表情をしています。

次に高砂市の阿弥陀町には沢

山の石棺仏がありますが、金剛寺裏の地藏山の頂にある地藏山石棺仏を訪れます。加古川バイパスのすぐ横の小高い丘の上に阿弥陀三尊が彫られています(写-14)。前にある水溜も石棺材です。室町時代の作でバイパスからも見ることが出来ます。

小野市の来住町の養父寺の参道には左右2基の養父寺石棺仏があります(写-15)。右側は組み合わせ式



写-13 「美登呂姫の石仏」

石棺の底石を利用して地藏菩薩立像を、左側は組み合わせ式石棺の長側石を利用して地藏菩薩立像を彫ってあり同じ石棺から作ったものと思われる。室町時代の作です。

姫路市で見逃せないのが的形町にある福円寺の不動三尊石棺仏です。福円寺

の裏山の墓地にあり、石棺仏で不動三尊を彫ったものは非常に珍しいものです(写-16)。組み合わせ式家



写-14 「地藏山石棺仏」



写-15 「養父寺石棺仏」

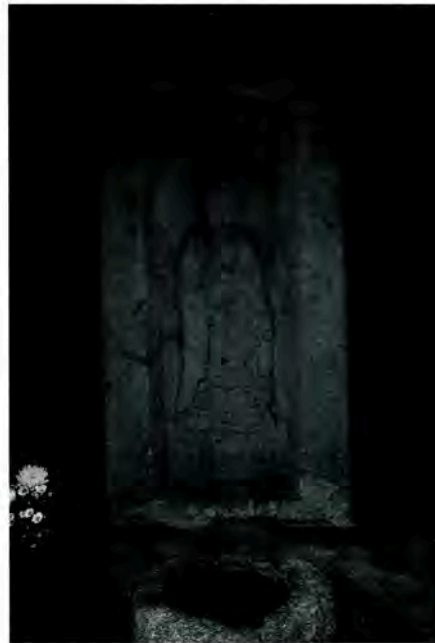
形石棺の底石を利用して中央に不動明王、左に制多迦童子、右に矜羯羅童子が彫刻されています。室町時代前期の作です。



写-16 「福円寺不動三尊石棺仏」

以上播磨の代表的な石棺仏を見てきましたが、加西市の石棺仏は鎌倉から南北朝にかけて、阿弥陀坐像を単独で彫刻し

たものが多く、加古川市の石棺仏は室町時代に作られ、像自体は小振りになり、阿弥陀や地藏菩薩を複数彫刻した多尊石仏が多くなります。またその中に逆修として施主や供養者を仏像として彫り込んだ例も見られます。石棺仏の面白さは当時の石棺としての素材の面白さとその後彫刻された仏像の面白さの2つ



写-17 「福昌寺石棺仏」

を楽しめることです。そしてほとんどの石棺仏はどんな所においても、今なお人々の信仰の対象として供物やお花が供えられています。

今すぐ石棺仏を見たいが播磨までいけない人には恵比寿にある播磨の石棺仏を紹介します。

渋谷橋の交差点

にとっても近代的な福昌寺という立派なお寺があります。入ってすぐの右側に組み合わせ式家形石棺の蓋石に阿弥陀立像が彫られています(写-17)。阿弥陀如来はほとんど坐像ですが立像は大変珍しいものです。材質は播磨の竜山石で南北朝の作品とされています。ぜひ見学して石棺仏の雰囲気味わって下さい。